2026 年 9 月 19 日

加盟団体代表者 各位

公益財団法人 JAPAN BOWLING
競技委員長・競技運営改革委員長
柳　川　　弘　行
（　公　印　省　略　）

第 80 回国民スポーツ大会（青森）および第 55 回全国都道府県対抗選手権における競技フロアへのボール持込制限等の運用について

拝啓、時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は当団体の諸事業に格別のご理解、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、2026 年 5 月 20 日付文書「競技フロアへのボール持込制限の緩和及びレーン移動方法の変更について」にて、競技フロアへのボール持込制限緩和（ボールバッグ 2 つ・ボール最大 6 個まで）およびレーン移動方法の変更（ボールバッグを持って移動）をご案内し、運用を開始しているところです。

しかしながら、今般開催されます「第 80 回国民スポーツ大会（青森）」および「第 55 回全国都道府県対抗選手権」におきましては、1 ボックスあたり 8 名での投球が想定されており、ボウラーズエリアのスペース上、選手全員のボールバッグを収めきることが困難な状況です。このため、本運用をそのまま適用した場合、エリア内の著しい混雑や選手の安全面・スムーズな移動に支障が生じることが懸念されます。

つきましては、選手皆様の安全確保および円滑な大会運営を最優先とし、上記 2 大会における特例措置として従来の運用方法を適用することといたしました。貴連盟におかれましては、参加選手および関係者へ本件について周知徹底を図っていただきますようお願い申し上げます。ご不便をおかけいたしますが、何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ご不明な点等ございましたら、JB 事務局（担当：鈴木）までご連絡ください。

敬具

記

1. 対象大会
   第 80 回国民スポーツ大会（青森）
   第 55 回全国都道府県対抗選手権

2. 適用する運用方法（従来の運用方法）
   競技フロアへのボール持込制限： 外形的に 4 個以内
   レーン移動時の取り扱い： ボールバッグは持たずに（ボールのみを持って）移動

3. 特例措置の理由
   ボックス 8 名打の想定において、ボウラーズエリア内にボールバッグを十分に収容することが難しく、安全なスペースの確保および円滑な競技進行を優先するため。

以上